

愛知県環境審議会総合政策部会 会議録

1 日時 平成26年1月21日（火）

午前10時30分から午前11時55分まで

2 場所 愛知県自治センター4階 大会議室

3 議事

(1) 環境基本計画の改定について

(2) その他

4 出席者

委員10名、専門委員3名、説明のために出席した職員21名

5 傍聴人 1名

6 会議内容

議事録の署名について、青木部会長が吉久委員と井村委員を指名した。

(1) 環境基本計画の改定について

- ・ 資料1（第4次環境基本計画策定に係る審議予定等）、資料2（環境審議会総合政策部会の審議状況）、資料3-1（第4次愛知県環境基本計画 中間とりまとめ（案） 概要）及び資料3-2（第4次愛知県環境基本計画 中間とりまとめ（案））について、事務局から説明があった。

<主な質疑応答>

【河野専門委員】

9 ページの第4章「2020年までの環境施策の方向」で表の縦の並びでは、「自然との共生」の次が「資源循環」であるが、表の上の説明文では逆になっているため、同じ順番とすべきである。6 ページ右側の図で、「県民みんなが行動するあいち」の記載について、県民一人ひとりが高い意識を持ち、それぞれの立場での環境配慮行動が日本一活発に取り組みられる地域との書きぶりであるが、主体性を持って取り組むといったニュアンスが持てるよう、「環境配慮行動を日本一取り組む地域」との修正を検討してはどうか。

【森田委員】

一般に良く使われる里山という言葉が出てきていない。9ページの「環境と経済の調和のとれたあいち」の中の、自然との共生に向けた取り組み分野の中で、代償ミティゲーションの導入については記載されており、生物多様性の保全、再生が伴う事業活動の中に里山の観点もあるのかもしれないが、里山の保全という言葉、あるいは里海という言葉が県民の間、一般の方には馴染んでいないと思われる。本文の49ページにおいても記載がないので、「里山」という言葉を入れていくようにしてはいかがか。

また、言葉全体の中を見ると、ミティゲーションという言葉は難しいのではないかと。これが容易に分かる県民は少ないのではないかとと思われる。同様に、例えば、コンテンツ、13ページのエコアクションの推進、計画の進行管理でのPDCAサイクルなど、こういう言葉は簡単には馴染まないと思われるので、工夫をしていくべき。ただし、3Rに関しては、常にカッコ書きで解説してあるのでこの点は良いと思う。PDCAサイクルのような言葉は重要であるので、県民にも分かりやすいものとなるよう考慮していただきたい。

【竹内専門委員】

本文には用語解説があり、また、里山の保全に関する記述は、本文43ページに記載あるがいかがか。

【森田委員】

県民に広がるのは概要版でないかと考えており、こちらに解説の記述がないと、県民は分かりにくいのではないかと。

【事務局】

ただ今、竹内専門委員からもご説明あったが、本冊では、最後に用語解説を追加し記述している。しかしながら、まだ難しい言葉で取りこぼしているところもあると思われるので、さらに用語解説を増やし、充実させていきたいと考えている。また概要版については、ご指摘のとおりであるため、できるだけ概要版の中で完結できるよう、この中にも言葉の解説を入れていくこととしたい。

また里山という言葉の記述については、本文中では里地里山の保全が必要であるとのことは、本文43ページの「安全で快適に暮らせるあいち」の中において「里地里山や湿地、湿原などさまざまな場所での生物の生息空間の保全と再生に取り組み」として記載しており、概要版でも同様の記述を11ページに記載している。

【小島委員】

9ページのマトリックスは非常に分かりやすくなったと思われる。

先ほど言葉の点で指摘のあった「日本一活発に取り組まれる地域」のところであるが、整合性という観点から、6 ページ右側の下の囲みのあいちづくりの記述でどれも「日本一」としている表現であるが、7 ページの右側の吹き出しの「県民みんなが行動するあいち」では「日本一環境配慮行動が活発な」と他2つの「日本一〇〇な地域」と異なっており、「日本一活発な地域」と表現を合わせた方が良いのではないか。

7 ページ右側で、丸い円の中から赤い矢印で右上に「世界へ発信する」となっているところから受ける印象であるが、コンセプトからすると、暮らしが安全・安心というところが一番求められるところであると思われるが、それを下からエネルギーのような力で、力強い経済で支えるのが「環境と経済の調和」で、そのようなことが背景にあって、もう一つ、行動する主体である県民がいるという、それぞれ並列では表せないような関係があるのだろう。これをマトリックスで表そうとすると、2次元では表現し難いようなもので、次の段階の要求となるのであろう。これを変えてほしいとの意見ではないが、単に並列とういものではない「3つのあいち」の関係があるのとの印象を受けた。

【青木部会長】

確かに、マトリックスの縦軸は立体的になったが、横軸は並列であるが、この横軸を立体的にするのは相当難しいものとなり、対応できないかもしれない。

【吉久委員】

7 ページの「全国世界へ発信」の矢印であるが、赤色は危険な感じがあり避けた方が良いと感じる。

8 ページの目標の表の中で項目の見出しに「基準」とであるが、環境基準などで使う言葉は基準であるが、ここでは「基準」ではなく、「現状」、「現況」などの表現の方が適切でないか。

本文 57 ページのPDCAの図には矢印を付けた方が分かりやすい。学生が見るとPDACなど間違えることがあるかもしれない。

【井村委員】

7 ページの図についてであるが、「環境首都あいちを支える担い手の育成、人づくりの推進」とあり「人づくり」を重要視されていると思うが、この7 ページ右側の図の中で、例えば、連携・協働は大きな中心の矢印の中に入っているが、「人づくり」の記載がない。吹き出しの記載では、高い環境意識を持ち日本一環境配慮行動が活発な地域とあるが、これは実現された目標であって、これに向けての「人づくり」の施策がこの中にもどこかに入れるべきである。目標、成し遂げた結果の記述だけでなくアクティブな行動の意味合いの「人づくり」もこの中に入れていくことが必要ではないか。

人づくりの推進にあるのは、県民や事業者の自主的な行動を誘導するような行

政側からの施策を進め、環境面での人づくりに取り組みますといったことであるのかと思われるが、「人づくり」というのはいろいろな要素がある。その中でも環境面での「人づくり」で総合的に施策を進めるとのことであろうが、「環境面」に限定する必要はないのではないか。

また、6 ページで「県民みんなで未来へつなぐ」と記載された箇所であるが、ここでの県民は、いわゆる県民と事業者とか様々な主体が合わさった県民であると思われる。一方、13 ページでは、県民の役割、事業者の役割、行政の役割など県民と事業者、NPOなどは区別されている。6 ページの県民が全てを含んでいることは言わなくても分かるのかとも思われるが、13 ページと異なる使い方をしているのは気になる点である。

2 ページであるが、「社会経済システムやライフスタイル」の転換とあるが、正確には、環境との調和できるような都市構造や社会経済システムの転換であって、単にライフスタイルの転換だけ進めれば、必ずしも環境に良い転換になるとは限らない。環境負荷に配慮された社会経済構造の転換、ライフスタイルの転換ということが分かる表現に修正すべきではないか。

7 ページの赤色の矢印、全国・世界へ発信との記述について、ここは非常に大事なところと思うが、県としては何をするのか曖昧で見えてこない。国際協力に関しては JICA との協力などの記載があるが、県や市町村では国際協力や国際的な仕事は本来自分のところの仕事ではないとの発言を聞かれることもあり、計画に書いていくのは良いが、もう少し地元の仕事と結び付けてやれるようなことがないとなかなかこの分野は進まないであろう。

【青木部会長】

4 点ほど意見をいただいた。確かに「県民」との言葉は、異なる意味として使っているのでこの点は表現の修正をするなど検討したい。

【事務局】

ご意見を踏まえて、再度検討していきたい。確かに「県民」の言葉は、目標で使っている「県民みんなで未来へつなぐ」と、県民、事業者、行政などと説明しているところと意味合いが異なっているのはご指摘のとおりである。

【森田委員】

JICA との関連だけの記載であると行政だけの取組のように感じられる。

これからの計画となるものであるから、愛知県というものはモノづくりが盛んであり、また、工業製品だけでなく、農産物やサービスなどにおいてもいろいろな形で東南アジアを始め世界へ、NPO なども含め様々な人が出て行き活動していくということが考えられる。世界へ発信ということについては、もう少し内容を膨らませて書いていくのが良いのではないか。

【松本委員】

9 ページ「県民みんなが行動するあいち」の安全・安心の確保の箇所で、環境学習の総合的な推進について、環境学習だけで終わってはいけないので、学習の次に何があるのかということが分かるように、例えば、環境学習と行動などとしていくのが良いのではないか。

同じ9 ページ「環境と経済の調和のとれたあいち」の安全・安心の確保の箇所で、事業者に対しては自発的、自主的との言葉となっているが、事業者任せきりのような感じに受け止められる。大項目の中にももう少し言葉を足して、自発的・積極的な取組を後押ししていくとのニュアンスが見えるような表現に修正すべきではないか。

また、「県民みんなが行動するあいち」の自然との共生の箇所ではNPOの記述があるのだが、例えば資源・リサイクルに力を入れているNPOもあり、ここにしかNPOの取組が出てこないのは自然系のNPOしかないように見え、どうかと思われる。他の箇所にもNPOに関連した活動、施策が見えるようにすると良いのではないか。

最後に、6 ページの計画の目標では「県民みんな未来へつなぐ」となっており、「未来へ」との言葉は非常に多く使われる言葉ではあるが、主体性がなさ過ぎるとの印象を受ける。未来へつなぐのは私たちですが、今生きている人も幸せに暮らしたいとの思いもある。目標の修正が難しければ、この下の囲みの中で記載している実現に向けた「3つのあいち」づくりで、現在生きている世代が主体的に取り組まなければならないとのイメージが受け止められるような表現に修正してはいかがか。

【青木部会長】

言葉の問題として、自発的・自主的などの表現にご指摘あったが、お任せというよりはむしろ主体的に動いていただく、自らの判断で動くとの趣旨と思われるが、それがにじみ出ていないとのご指摘と思われる。事務局として補足すべき点などいかがか。

【事務局】

本文では、31 ページ、32 ページの「安全・安心の確保に向けた取組分野」で記載しており、期待していることは事業者の方に自発的、積極的に環境保全の取組をしていただくことであるが、そのために県の施策として、事業者の方に自発的に動いていただく政策的な誘導をやっていかなければならないとの書き振りになっている。

【井村委員】

9 ページマトリックスの図で、一番下段の橙色の囲みの中「あいちエコアクションの推進」のところでは、環境配慮行動を促す県民運動の展開、情報の一元的な

提供、環境学習施設のネットワークの充実・強化などの記載があるが、13 ページでは、「総合的な施策推進に向けて」としている。下段橙色の囲みの中の記述が、総合的な施策を推進するものとしてマトリックス全体を包括する内容としては少し範囲が狭いのではないか。あいちエコアクションが、「身近な環境おける気づきと行動の促進」、「環境学習の総合的推進」、「社会の低炭素化に向けた意識とライフスタイルの変革」など「県民みんなが行動するあいち」を総合的に包括するようなものとして位置づけるならば適しているのかと思われるが、施策全体に係るものとしてはもう少し大きい内容となるものではないか。

【青木部会長】

下段の橙色の施策のような背景がないと上の「3つのあいち」ができていかないとの趣旨と思われるが事務局からはいかがか。

【事務局】

人づくりの部分は、「環境と経済の調和のとれたあいち」、「安全で快適に暮らせるあいち」においても含まれていくものと考えている。全体の施策を支えるとの趣旨が分かるように下に位置した形の図とした。

【井村委員】

その考えは非常に重要だと思う。ただし、人づくりに関する施策について、もう少し大きい、広い意味を持つものがあったとしても良いのではないか。

【浜口委員】

今の、「あいちエコアクション」の推進のところについて、例えば、もう少しダイレクトに「人づくりの推進」などとしても良いのではないか。目標の中にも「人づくりの推進」を記載していくのだから、黒丸の表記で記載された内容は、県の施策としてやっていこうとしていることと思うが、マトリックスの中の記載にも「人づくりの推進」をそのまま入れても良いのではないか。

【河野専門委員】

井村委員、浜口委員の意見と同じであり、9 ページのマトリックス図を見ると、社会の低炭素化、自然との共生、資源循環を括るのが安全・安心の確保であり、さらにそれを大きく括る施策として「あいちエコアクション」の推進とするのは少し違和感がある。この内容であれば、「県民みんなが行動するあいち」の施策として「安全・安心の確保」の項目として入れていくほうがよりすっきりするのではないか。「県民みんなが行動するあいち」の中には、総合的な環境学習の推進との項目があり、こちらで整理した方が良いのではないか。

【田中委員】

これまでの意見と重複するかもしれないが、1点目は、6ページでの「経済・産業活動に常に環境配慮の視点が組み込まれ」との表現があるが、この表現は二重、三重とオブラートに包んだ表現となっており少し弱い感じがある。一方、10ページでは、環境に配慮した取組が積極的に実施され」となっており、強い主体的な表現となっている。言うべきことはきちんと表現していくべきであり、ここは修正すべきである。

2点目は、7ページの図で「全国、世界へ発信」とは、いったい何を発信するのかとの意見があったが、モノづくりあいちの事業者を教育するのは誰であろうかということを見ると、例えば、タイなど途上国進出する工場の事業者、経営者には、全て環境に対して配慮がなされた工場となるようなことを「発信」という考えもあるだろう。環境配慮の意識を持った事業場が途上国などで活躍するというこのようなイメージならば、もう少し丸の全体から矢印がいくつも出ている感じであろう。みんなが安全・安心な暮らしのできる工場や事業場となるようなものを世界へ「発信」するものとなる。

3点目は、8ページの表中の「廃棄物の排出量」、「廃棄物の再生利用率」、「廃棄物の最終処分量」について、排出量から再生利用率を掛け合わせた量を差し引きすると、最終処分量にはならない計算となり、これだけの項目の数値を見る限りでは合わないがこの点はいかがか。

【事務局】

最後の廃棄物のご質問については、排出量というのは、一般廃棄物の場合では一般家庭などから出てきた値であり、通常はその後、焼却処理を行い、そこから出てきた焼却灰などを最終処分することとなるので、焼却による減量化、減容化で数値が合わないということになり、ご指摘のとおりここの数値だけでは説明できないものとなっている。

【織田委員】

先ほども意見あったが、「全国・世界へ発信」ということについて、先ほど矢印が赤では良くないとの意見があったが、赤色はエネルギーを感じる色とも受け止められる。愛知は、工業先進県とういことばかりでなく農業生産高も非常に高い。このような愛知の意志を非常に強く感じられるイメージ、やる気、意欲を感じられる意味で赤色としても良いのではないか。

また、前回「もったいない」との言葉が出たが、せっかく前回意見のあったこの言葉をどこかに触れても良いのではないか。

【事務局】

概要版の9ページ、「県民みんなで行動するあいち」の資源循環の項目において、実践例の紹介等による「もったいない」の精神の普及啓発、本文では51ペー

ジで、「もったいない」の精神を尊重し、リサイクルよりも、ごみの発生の抑制や、不要になった物の再使用に重点的に取り組むことを盛り込んでいる。

【三島委員】

1点、さらに踏み込んでいただきたいとの要望であるが、公共事業におけるリサイクル資材の率先利用というだけでなく、もう少し公契約における政策推進との視点を行政として踏み込んでいただきたい。

第5章の計画の推進では、行政の役割について記載されているが、ここには公契約における政策推進との観点は含まれていない。グリーン調達については含まれていることと思われるが、公共事業だけではなく、もう少し広い政策指針となるような契約の方針を、県においても襟を立ててきちんとやっていくということを示してほしい。

【河野専門員】

7ページ上の「全国、世界へ発信」との箇所、事業者だけでなく、愛知県で教育された人も世界へ出て行っている点も含めていただきたい。

また、6ページでの「県民みんなが未来へつなぐ」とあるが、先ほど松本委員からも意見があったとおり「県民みんなが未来へつなぐ」の方が、主体がはっきりして良いのではないかと。

【森田委員】

この計画、概要版については、どのぐらい印刷物を作成される予定か。

また、広く出回るのは概要版の方になると思われる。この時に、本冊ではありますとの説明では良くない。概要版だけで上手く説明できるよう工夫をされたい。

【事務局】

来年度予算で要望をしており、予算上は本冊が1,000部、概要版が2,000部を予定しているが、実際には概要版をもう少し多く作成するようにしていき、県民の皆様には概要版で説明していきたいと考えている。また、愛知県のウェブページも活用し、啓発していきたいと考えている。

【青木部会長】

議論も尽きないが、委員の皆様からは、肯定的なご意見をいただき、予定していた時間も過ぎたので、そろそろ部会での報告を取りまとめたいと思う。表現などのご意見、ご指摘などについてはこれから事務局で修正案を作成していただく。細かな修正方法、表現については、私に一任いただき、今日の議論を閉めたいと思うが、委員の皆様いかがか。

【各委員】

異議なし。

【青木部会長】

委員の皆様から異議がなかったなので、ご了解いただいたものとする。表現などの指摘については事務局で修正を行っていただいた上で、部会の「中間とりまとめ」とし、環境審議会に報告したいと思う。なお、この「中間とりまとめ」をもとに事務局がパブリック・コメントを実施する予定となっている。

議事2 その他

特になし。

以 上